

令和 7 年度（2025 年度）

南牧村教育委員会における
事務の管理、執行状況の点検及び評価報告書

令和 6 年度（2024 年度）対象

南 牧 村 教 育 委 員 会

第1 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することが規定されています。

この規定に基づき、南牧村教育委員会が、令和6年度（2024年度）の点検及び評価を実施し、その結果をここに報告書として作成しました。

第2 点検及び評価の対象と方法

- 1 点検及び評価の対象は「令和6年度南牧村教育行政方針」に基づき、この教育行政方針に掲げられた次の項目とします。

I 学校教育 ～自ら考え判断し行動できる力の育成～

- 1 学校教育の推進充実
- 2 教育環境の整備

II 社会教育 ～村民の生きがいがづくり～

- 1 生涯学習の充実
- 2 スポーツ活動の充実
- 3 芸術・文化活動の振興

なお、令和6年度南牧村教育行政方針は、群馬県教育委員会運営方針に沿い「高い知性、豊かな情操と徳性、優れた創造力、たくましい心身を備え、郷土を愛する心と国際協調の精神を培いつつ、新しい時代を担うことのできる人づくりを目指して、教育行政を推進する。」ことを基本理念とし、「現在が時代の大きな転換期にあるという認識に立ち、教育をめぐる様々な今日課題に対応しながら、基本理念の実現を図るために諸施策を推進する。」ことを基本方針としています。

- 2 点検及び評価の方法は、当該年度の施策、事業の状況を総括するとともに、課題や今後の取組の方向性などを示すものとし、年1回実施します。

第3 点検及び評価結果の構成

南牧村教育行政方針の各項目について点検及び評価を実施しました。

- 1 目標達成のための方向性
項目毎に、目標を掲げ、目標達成のための方向性を示しています。
- 2 進捗状況と評価
各取組の進捗状況を踏まえ、項目ごとに評価を行っています。
- 3 課題と今後の対応
評価を踏まえ、課題や今後の取組の方向性を示します。

I 学校教育 ～自ら考え判断し行動できる力の育成～

1 学校教育の推進充実

一人一人の個々の能力を伸ばすための教育と郷土を愛する心、豊かな心を育て、たくましく生きる力を身に付ける教育を推進する。

(1) 学校経営の充実

①特色ある学校づくり

目標達成のための方向性	進捗状況と評価	課題と今後の対応
ア 校長のリーダーシップのもと、経営ビジョンを明確化し、組織的・計画的かつ継続的な実践に取り組みます。	○義務教育学校の開校にあたり、組織の一員として持つておくべき「心構え」を全職員に示し、意識を高めた上で、学校経営方針の共通理解を図りました。 ○全職員が一丸となって学校経営方針の実現に向けて努めました。	○引き続き学校経営ビジョンを全職員のみならず、保護者・地域で共有し、組織的・計画的に教育活動が進められるよう努めます。
イ 学習指導要領の趣旨に沿って、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた創意あふれる特色ある教育課程を編成・実施し、経営改善を図ります。	○学校経営方針を全職員で共通理解・共通実践し、学校組織として学校経営の充実に努めました。	○引き続き外国語指導助手、複式学級解消非常勤講師、学習支援員や図書館支援員を配置し、学習指導体制の充実に努めます。
ウ 地域の実態を十分に踏まえ、地域の施設や人材を活用するなど、家庭・地域と連携協力した教育を推進します。	○地域人材を活用し、農園や麦わらづくりを体験し、地域で関わりのある農業や地域文化に触れる取組を行いました。	○引き続き地域人材を活用した農業等の体験を通して、地域で関わりのある農業や地域文化に触れる取組を行っていきます。
エ 学校便りやホームページ等を通して、教育方針や教育活動、学校評価などの情報を家庭や地域及び村外へ積極的に発信するように努めます。	○教育方針や教育活動などの情報をなんもくふれあいテレビや学校通信、ホームページを通じて家庭や地域に積極的に提供し、学校評価の結果を踏まえることで、地域に根ざした信頼される学校づくりに努めました。	○学校便りやホームページ等を通して、学校の取組を家庭や地域及び村外へ積極的に情報発信していきます。

②教職員の心身の健康管理

目標達成のための方向性	進捗状況と評価	課題と今後の対応
教職員の健康状態などの把握に努めるとともに、業務改善に向けた取組を継続的に行い、率先して明るい職場環境づくりに取り組みます。	○ストレスチェックや面談等を通して教職員各々の健康状態や家庭状況を把握した上で十分に配慮するとともに、風通しがよく働きやすい職場環境づくりに努めました。	○引き続き教職員の健康状態や家庭状況の把握に努めるとともに、働きやすく働きがいのある職場環境づくりに取り組みます。

③小中一貫教育の推進

目標達成のための方向性	進捗状況と評価	課題と今後の対応
ア 義務教育9年間を通じた教育課程を編成・実施することにより、系統性、一貫性のある教育を推進します。	○義務教育9年間を見通した教育課程を編成・実施することで、一貫性のある教育となるよう努めました。	○引き続き義務教育9年間を見通した教育課程の編成・実施を行い、系統性、一貫性のある教育の推進に努めます。
イ 一人一人の子どもの育ちと特性について、教職員が情報交換や交流を行い相互理解を深め、発達段階に応じた教育に取り組みます。	○全教職員が全児童生徒の担任であるという意識をもって子供たちに適切に寄り添い、一人一人の特性や個性に応じた指導・支援に努めました。	○子供たちの「今の状態」を全教職員で情報共有し、児童生徒一人一人の特性や個性に応じた指導・支援に努めます。

④評価による経営改善

目標達成のための方向性	進捗状況と評価	課題と今後の対応
学校評価の結果等を踏まえ、信頼される学校づくりに努めます。	○保護者・児童生徒・教員を対象に、年に2回学校評価を実施しました。 ○学校運営協議会により地域の意見を取り入れる機会を設けました。	○学校評価の結果を教職員で共有し、教育委員会、地域と連携しながら、信頼できる学校づくりに努めます。

(2) 学力向上と学習意欲の向上

①学習指導の充実

目標達成のための方向性	進捗状況と評価	課題と今後の対応
ア 小規模な義務教育学校の良さを活かし、弾力的でゆとりのある教育課程の編成を行い実施します。	○学習指導要領に即した全体計画及び指導計画により、9年間の学びの連続性を意識した教育課程の編成・実施を行いました。	○学年や教科を越えたＴＴや、教育課程に特化した職員会議の開催により9年間を見通した指導計画を継続します。
イ 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得できるように、少人数ならではの「個に応じた指導」、「探求型指導」の充実を図ります。	○少人数ならではの個に応じたきめ細かな指導を実践し、基礎的・基本的な知識・技能の定着に努めました。	○引き続き「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をバランスよく育む「生きる力」の育成に努めます。
ウ 知識・技能を活用して思考力・判断力・表現力等を育むことができるように、体験的な学習や課題解決的な学習を重視するとともに言語活動の充実に努めます。	○知識・技能を活用して思考力・判断力・表現力等の諸能力を育むことを目的に、9年生を対象に奈良・京都方面への修学旅行を実施しました。 ○目的を持った班行動により、協力性・礼儀・探究心・問題解決能力・社会的判断力・実践力などを養うために、各学年の実態に応じた校外学習を実施しました。	○校外学習を活用し、自主的に考え行動できる力を育成し、団体行動による協力性や礼儀、社会的判断力等を身に付けることができるように努めます。 ○自分たちで計画・立案する過程で、調べたことを話し合ったり発表し合ったりすることで、言語活動の充実に繋がります。
エ 年間指導計画に国際理解教育の狙いを明確に位置付けるとともに、外国語活動を充実させ、計画的に国際理解教育を推進します。	○外国語指導助手の効果的な活用を通して異文化の理解を深め、国際理解教育の推進を図りました。	○外国語指導助手の2名体制を継続し、様々な場面での交流を通して異文化の理解を深め、国際理解教育に努めます。
オ 5年生以上では、児童・生徒の実態に応じて、教科担任制の導入に努め、専科教員により質の高い学びができるよう取り組みます。	○職員の配属や児童生徒の実態等に応じて前期課程から教科担任制を導入し、児童生徒にとってより質の高い教育を提供できるよう努めました。	○引き続き職員の配属や児童生徒の実態等に応じて柔軟に教科担任制を導入し、児童生徒の学びがより深まる質の高い教育を提供できるよう努めます。

カ 授業では異学年や地域住民など他者と課題解決を図る機会を積極的につくり、コミュニケーション能力や他者を尊重する精神を育みます。	○授業において、異学年や教職員に向けて発表する機会を設け、コミュニケーション能力の育成を図りました。	○学校運営協議会に児童生徒会の役員が参加し、地域住民とともに課題解決を図る機会を設けることで、学校と地域をより良くしていこうとする態度を育みます。
--	--	---

②学習内容の充実

目標達成のための方向性	進捗状況と評価	課題と今後の対応
ア 自主性、自律性を活かした取組を行い、他者を尊重しながら対話や交流を通して人間関係を形成する力の育成に努めます。	○授業を通して児童生徒の自主性や自律性を育むため、「教師がさせる授業」から「児童生徒がする授業」へ、教師の意識改革を図りました。	○「教師がさせる授業」から「児童生徒がする授業」への転換を進め、子供たちの自主性・自律性を促すとともに、対話や交流を通して人間関係を形成する力を養うよう努めます。
イ 児童・生徒の能力に応じた各種検定取得の目標を持たせ、学習意欲の向上を図ります。	○英語検定と漢字検定の受検を推奨し、児童生徒が各々の能力に応じた級の取得を目指して努力することができました。	○引き続き各種検定の受検を推奨し、目指す級の取得に向けて目標を持たせることで、学習意欲の向上を図ります。
ウ 主体的に学習に取り組む態度を涵養し、ICTを有効活用しながら、学習意欲を高め、わかる喜び・できる喜びを実感できる指導の工夫に努めます。	○ICTを効果的に活用し、「わかる授業」になるよう工夫したことで、児童生徒が意欲的に学習に取り組む姿が多く見られました。	○引き続き恵まれたICT環境を生かして児童生徒の学習意欲を高め、わかる喜び・できる喜びを実感できる授業になるよう努めます。

(3) 教職員の資質の向上

①教職員研修の充実

目標達成のための方向性	進捗状況と評価	課題と今後の対応
ア 働き方改革を進め、教師が児童・生徒と触れ合う時間を増やすとともに、ゆとりある学校生活が送れるよう努めます。	○教職員の多忙化解消のため、行事・校時表・業前活動を見直し精選しました。また、職員会議の協議内容の焦点化を図り、校務の効率化に取り組みました。	○従前に捉われず、これまでの行事等の見直しを行い、精選を図ります。また、ICTを効果的に活用して更なる効率化を図ります。

イ 学力向上委員会を中心として学力向上に関する指導体制の工夫・改善を行い、教師一人一人の指導力の向上を図ります。	○新学習指導要領に基づいた「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるとともに「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組みました。	○これまでの指導内容の振り返りや改善を行い、教職員の共通理解を図るとともに、一人一人の意識改革や指導力の向上に努めます。
ウ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善と、学校の教育課題解決に向けた校内研修の計画的な実施に努めます。	○校内研修、計画訪問等を活用し、教育ＣＩＯや西部教育事務所の指導のもと授業研究を通して教職員の指導力と専門性の向上に努めました。	○校内研修の方向性の共通理解を図り、授業改善や検討会の実施、情報交換を行い、教職員全体の指導力向上に努めます。
エ 教職員間の共通理解による全体的な指導・支援体制の確立を図り、実践力を高め、教育目標の達成に努めます。	○計画訪問の際に職員が互いに参観し合い協議する場を設け、指導力の向上に努めました。	○研修主任を中心に研修計画に沿って校内研修を推進し、教職員一人一人の指導力の向上を図ります。
オ 人事評価制度を活用し、積極的な学校運営への参画と教師の職能成長を図るように努めます。	○人事評価制度の効果的な活用と日常的な称賛の言葉がけにより、学校運営への積極的な参画を促すことができました。	○当初面談の場において、人事評価制度についての目的や意義、評価の流れ等について説明し、制度を効果的なものに繋げます。
カ 人権教育、特別支援教育、ＩＣＴ機器の活用、プログラミング教育、英語教育等の教職員研修に積極的に参加し、専門性を磨き、指導力の向上に努めます。	○積極的に教育研修に参加する機会を与えるとともに、参加できる体制づくりに努めました。	○研修履歴記録シートを活用し、各キャリア段階に応じた研修への積極的な参加を促すことで、スキルアップと指導力向上に繋がります。

②教職員の服務規律の確保

目標達成のための方向性	進捗状況と評価	課題と今後の対応
働きやすい職場環境づくりを進め、服務規律の徹底に向けた取組を図ります。	○県教育委員会からの通知をもとに、校長会を通じて教職員に周知を図り、服務規律の徹底に努めました。 ○職員会議の際に、教職員が輪番制で服務規律確保について話題にする場を設け、自分事として意識できるように努めました。	○服務規律確保行動計画を基に、引き続き服務規律の徹底に努めます。 ○教職員間のコミュニケーションを図り、風通しの良い職場環境づくりに努めます。

(4) 豊かな人間性の育成

①道徳教育の充実

目標達成のための方向性	進捗状況と評価	課題と今後の対応
より良い生き方を考えたり追求したりする児童・生徒を育成することができるよう、児童・生徒一人一人が考え、議論する道徳授業の工夫・改善に努めます。	○道徳の授業の充実や、キャリア教育の視点に基づいた指導により、自らの力で人生を切り拓く意欲の育成に努めました。	○引き続き「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をバランスよく育む「生きる力」を伸長し、道徳性を培います。

②生徒指導の充実

目標達成のための方向性	進捗状況と評価	課題と今後の対応
いじめ、不登校の未然防止、早期発見、早期対応には、全教職員で情報を共有し対応にあたります。	○「いじめ防止基本方針」を全教職員で共通理解した上で、児童生徒の様子を定期的に情報交換し、いじめの未然防止に努めました。	○引き続き定期的な情報交換を行い、全教職員でいじめの芽を摘むよう努めます。 ○いじめ防止に向けた取組を「いじめ防止活動年間計画」に則り推進し、児童生徒一人一人がいじめを自分事として考え、自主的、実践的にいじめ防止に取り組もうとする態度を育てます。

③キャリア教育の充実

目標達成のための方向性	進捗状況と評価	課題と今後の対応
児童・生徒が自分のよさに気づき、夢と希望に向かって自らの力で切り拓いていこうとする意欲や態度を育成することができるよう、キャリア教育の視点に基づいた指導を充実します。	○地域人材による森林環境教育と森林体験活動を通じたふるさと学習を実施し、林業に対する知識の向上と関心に繋げることができました。	○各種体験活動を実施し、地域に関わりのある産業について学べる場の提供に努めます。

④安全教育の充実

目標達成のための方向性	進捗状況と評価	課題と今後の対応
生命尊重を基盤とした危険予測・回避能力を育成できるように、地震、火災及び不審者対策の避難訓練などの防災教育並びにSOSの出し方教育や感染症等に関する教育を計画的に実施します。	○学校安全総合支援事業（学校安全推進体制の構築）の成果を踏まえ、地震や火災を想定した避難訓練や引き渡し訓練などを実施し、危険予測や回避能力の育成に努めました。	○引き続き避難訓練や不審者対応などを継続実施し、危険予測や回避能力の育成に努めます。

⑤人権教育の充実

目標達成のための方向性	進捗状況と評価	課題と今後の対応
ア いじめ防止子ども会議等、児童・生徒による主体的ないじめ防止活動を推進します。	○6～8年生が「いじめ防止子ども会議」に参加することで、児童生徒が自分事としていじめを防止しようとする態度の育成に努めました。	○継続して「いじめ防止子ども会議」を実施し、いじめのない明るい学校づくりに努め、生命や人格を尊重し豊かな心をもった児童生徒の育成を図ります。
イ 多様性を尊重し、他人を思いやるなど、豊かな心をもった児童・生徒を育成することができるよう、児童・生徒の発達段階に即した人権教育を推進します。	○人権週間を設け、人権について深く考える機会を多くもつことを通して、生命や人格を尊重し豊かな心をもった児童生徒の育成に努めました。	○引き続き人権について集中して考える期間を設定し、人権感覚の醸成に努めます。

⑥福祉・環境教育の充実

目標達成のための方向性	進捗状況と評価	課題と今後の対応
ア 福祉施設のボランティア活動や高齢者とのふれあい活動を充実させ、児童・生徒に地域の現状を理解してもらうとともに優しい心の醸成を図ります。	○村内の福祉施設でのボランティア活動や高齢者とのふれ合いを通して、地域の現状を理解し高齢者に対する思いやりの心情が高まるように努めました。	○引き続き福祉施設への訪問を教育課程に位置付け、福祉教育の充実を図ります。
イ 自然体験や地域行事への参画により、ふるさとを知り親しんで、良さを発見し、より良い地域づくりに貢献しようとする態度の育成に努めます。また、将来にわたって自然豊かなふるさが永続していくよう、環境に貢献しようとする心を育みます。	○千原観音祭への前期課程の児童の参加や、火とぼし祭り、ふるさと祭りへの後期課程の生徒の参加などを通して、地域への愛着心を育むことができました。 ○前期課程の児童の巣箱かけや後期課程の生徒の林業体験などを通して、地域の環境への関心を高めることができました。	○千原観音祭には、後期課程の生徒も含めて全児童生徒が参加し、地域づくりに貢献できるようにします。 ○総合的な学習の年間指導計画表に「環境」分野を明記することで、系統的に環境教育に取り組み、地域の自然環境を守っていこうとする態度の育成を図ります。

(5) 健やかな体の育成

目標達成のための方向性	進捗状況と評価	課題と今後の対応
ア 体力の向上と心身の健康の保持・増進できるように、学校の教育活動全体を通して、学校体育・学校保健の充実を図ります。	○心身ともに健康な児童生徒を育成するため、「体力向上プラン」及び「学校保健全体計画」に基づいて、健康教育や安全教育の充実を図りました。	○引き続き「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」をバランスよく育む「生きる力」の育成に努めます。
イ 児童・生徒一人一人が健康な心と体づくりに関する正しい知識を身に付け、生涯にわたって健康保持できる自己健康管理能力を習得できるように、保健教育の充実を図ります。	○定期健康診断の結果、肥満傾向が見られるため、偏食をなくす指導や運動指導を行いました。	○児童生徒が体を動かす機会を確保し、社会教育事業と連携しながら、体力向上と健康の保持・増進ができるよう努めます。

ウ 心のケアを危機管理の一環として位置付け、日常から児童・生徒の健康観察を徹底し、教職員・関係機関と連携しながらメンタルヘルスの早期発見に努め、適切な対応及び支援を行います。	○児童生徒の身体面、精神面における悩みやストレスについて、個別相談を随時実施し、ストレスを上手にコントロールできるように支援しました。	○引き続き日常的に児童生徒の健康観察を徹底するとともに、アンケートや生活ノートなどから交友関係や悩みを把握し、早期発見と迅速な対応に努めます。
エ 規則正しい生活習慣と食生活が定着するように、生活指導・食育指導を充実させ家庭との連携を深めます。	○栄養教諭による食育指導を実施し、発達段階に応じたテーマに沿った食生活について学びました。	○地産地消を目指した学校給食実施のため給食業務委託先の下仁田町との連絡調整を行うとともに、栄養士による食育指導の充実に努めます。

(6) 特別支援教育の推進

目標達成のための方向性	進捗状況と評価	課題と今後の対応
ア 一人一人の個性を大切に、また特性に応じたきめ細かな支援を行います。	○多様な学びの場の充実に努め、児童生徒一人一人の多様性を尊重し、個に応じたきめ細かな支援を行いました。	○引き続き個に応じたきめ細かな支援を行い、児童生徒が生活や学習上の困難を改善または克服し、生き生きと学校生活を送るための基盤となる力を育てます。
イ 村教育支援委員会やスクールカウンセラー等の連携と活用により、適切な対応を図ります。	○支援の必要な児童生徒の実態を把握した上で、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携・活用を図りました。	○引き続きスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等との連携・活用を図り、特別支援教育の充実に努めます。
ウ 教職員の専門性の向上を図るため、研修に参加しやすい環境を整えます。	○年度当初の人事面談において、専門性を高める必要性について話題にしました。また、校外の研修等への参加を奨励しました。	○今後も、人事面談を通してキャリア段階に応じた助言を行い、各教職員が自己の資質・能力の向上に努められるようにします。

(7) 学校と家庭・地域の連携・協働の推進

目標達成のための方向性	進捗状況と評価	課題と今後の対応
ア コミュニティ・スクールを活用し、地域学校協働本部などの仕組みを活かして、保護者や地域の人との学校支援活動、放課後子ども教室等の活動を行います。	○学校運営協議会で、学校・地域それぞれの思いを共有し、連携・協働体制の構築に向けた取組を推進しました。	○コミュニティ・スクールを活用し、学校と地域がより連携・協働して児童生徒の成長を支えられるように、地域学校協働活動の活性化に努めます。
イ 子どものための様々な活動を通して、子どもたちに地域への誇りと愛着心を形成します。	○黒瀧山の巣箱掛けや大日向の火とぼし祭り、ふるさと祭りに参加しました。	○地域の自然文化に深い理解が得られるよう、今後も地域に係る実体験に取り組みます。
ウ 学びを学校だけで完結せず、学校、家庭、地域、行政機関等の連携・協働により、学校教育・社会教育が相互に関わりを持ち、生涯にわたる学びを広げていきます。	○総合的な学習では、地域の方にも多く協力いただきました。また、夏季休業中の社会教育事業に学校職員も参加するなど、学校教育と社会教育の連携強化に努めました。	○より学校教育と社会教育の連携を深めることができるよう、学びの場を学校外にも求め、それを実現させる学校職員と家庭、地域、行政機関の情報共有が密に行われるよう努めます。
エ 部活動の在り方や地域連携に向けた検討を推進していきます。	○保護者及び児童生徒を対象に部活動地域移行に関するアンケート調査を実施しました。	○アンケート調査結果に基づき、スポーツ・文化芸術活動の確保に向け、部活動地域移行の方向性を検討する。

2 教育環境の整備

小中一貫教育の充実のため、学校施設や教職員環境等、計画的に整備を図るとともに防災・防犯等、安全対策を推進する。

(1) 学校施設・設備の整備充実

目標達成のための方向性	進捗状況と評価	課題と今後の対応
ア 新校舎を有効に活用するため、旧南牧小学校校舎の解体を行います。	○旧南牧小学校校舎の解体に向け、解体工事設計を実施しました。	○解体工事設計に基づき、旧南牧小学校の解体工事に着手します。

イ 新校舎校庭にテニスコートや陸上競技設備を設置し、部活動ができる環境を整えます。	○校庭にテニスコートと陸上競技設備を設置し、部活動ができる環境を整えました。	○引き続き学びに必要な設備を整備し、より良い学習環境を整えます。
ウ 新校舎での学びに必要な設備を整備し、より良い学習環境を整えます。	○児童生徒の学びにとって必要性のある教材や教具等は、予算の範囲内で購入し、より良い学習環境になるよう努めました。	○教職員だけでなく、児童生徒の声にも耳を傾け、必要と認められる物は積極的に購入し、より良い学習環境の構築を図ります。
エ 1人1台端末や電子黒板などICT機器を有効に活用し、児童・生徒の情報活用能力を高めます。	○ICT機器の有効活用により、児童生徒の情報活用能力が高まるよう努めました。	○引き続きICT機器の操作方法や活用の仕方を全教職員が理解し、児童生徒の情報活用能力が高まるよう努めます。
オ 学校内外の安全を確保するため、学校、教育委員会、警察等の関係機関で連携し、交通安全、防犯等の安全確認と周知を行います。	○関係諸機関と連携し、児童生徒の安全確保に努めました。	○引き続き関係諸機関との連携を図り、児童生徒の安全確保に努めます。
カ 学校施設の定期的な施設点検を実施します。	○学校における児童生徒の安全を確保するため、必要に応じて施設の修繕を実施しました。	○児童生徒の安全確保のため、定期的な点検を実施し、より良い学校教育環境の整備・充実に努めます。

(2) 国際化と情報化に対応した教育環境の充実

目標達成のための方向性	進捗状況と評価	課題と今後の対応
ア 外国語指導助手を積極的に活用し、「生きた英語」による児童・生徒の直接体験を重視した指導の充実を図り、国際感覚や国際協調の精神を涵養します。	○外国語教科のみならず他の授業にも入り、指導の充実とともに自身の指導力向上にも繋げました。	○今後も各種授業や休み時間など児童生徒と積極的に関わり、国際感覚の涵養に努めます。

イ 外国語指導助手の保育園派遣に取り組み、保・学園の連携を図ります。	○外国語指導助手を保育園に派遣する機会を設けることができませんでした。	○外国語講師を保育園へ派遣するとともに、英語担当教員に活動の様子を参観させ、保・学園の連携を図ります。
ウ 各教科等において児童・生徒が異文化を理解し、外国語の人々や文化を受容する態度を身に付けるとともに、わが国の伝統や文化の尊重、郷土や国を愛する心を育てる指導の充実を図ります。	○外国語指導助手の効果的な活用を通して異文化の理解を深め、国際理解教育の推進を図りました。	○英語教育に限らず各教科においても外国語指導助手を配置し、それぞれの教科において異文化を理解できる体制づくりに努めます。
エ 学校教育全体でＩＣＴを活用し、基本的な操作スキルの習得や教科等の学習においての効果的な活用、情報モラル教育の充実を図ります。	○一人一台端末が整備され、デジタル教材などＩＣＴ活用のより一層の充実を図りました。	○学校教育全体において、ＩＣＴの効果的な利用に努めます。
オ 国際化、情報化など、社会の変化、時代の要請に対応した教育環境づくりに積極的に取り組み、計画的に教育諸条件の整備・充実を図ります。	○電子黒板を各学校に追加整備し、各教室で活用できる体制づくりに努めました。	○今後も目まぐるしく変わる社会の変化をいち早く察知し、状況に対応できる環境整備に努めます。

Ⅱ 社会教育 ～村民の生きがいがづくり～

1 生涯学習の充実

村民ニーズの的確な把握に努め、ライフステージに応じた学習機会の提供を実施する。

(1) 生涯学習推進の取組

目標達成のための方向性	進捗状況と評価	課題と今後の対応
ア 村民が生涯を通じ、学習に親しみ自己啓発を図り、その成果が地域や村づくりに生かせる推進体制の整備を図ります。	○近隣市町と連携し、住民に充実した学習サービスを提供するため、かぶら文化講座を開催しました。	○村事業、他市町村等と連携し、生涯学習事業のより有益な実施に努めます。
イ 生涯学習活動では住民ニーズの把握に努め、より多くの村民がライフステージに応じて学習活動に参加できるよう、施策の展開に努めます。	○実際生活に即する教育・学術及び文化に関する大人向けの事業を行い、住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図ることを目的に、みんなの学び場を4回行いました。	○村民の学習ニーズへの対応だけでなく、村民に有益な地域や社会の問題解決のための事業の選択実施に努めます。
ウ 生涯学習活動では、各世代が参加しやすい開催方法に努めます。		
エ 人権意識の啓発活動を推進し、人権問題の正しい理解に向け、人権教育・学習を推進します。	○昨今増加している SNS に起因する犯罪被害を踏まえ、インターネットでの誹謗中傷トラブルの現状と対処方法、正しい利用方法や注意点など、インターネットの人権問題について学ぶため、児童生徒を対象に情報モラル講習会を実施しました。	○SNS に起因する犯罪被害を踏まえ、インターネットでのトラブル等の現状と対処方法を学ぶ機会をもち、人権問題の正しい理解と学習を推進します。

(2) 生涯学習推進体制の充実

目標達成のための方向性	進捗状況と評価	課題と今後の対応
ア 広報媒体を利用した学習情報の提供と啓発に努めます。	○広報誌、なんもくふれあいテレビ等を通じて、情報の提供に努めました。	○継続して、広報媒体等を活用し、情報提供と啓発に努めます。
イ 生涯学習に関する指導者的人材の活用及び育成に努めます。	○指導者的人材の活用、育成には至りませんでした。	○指導者的人材を確保し、併せて育成を図り、学習環境が充実できるよう努めます。

(3) 学習の機会と活動支援の充実

目標達成のための方向性	進捗状況と評価	課題と今後の対応
ア 社会の変化に対応した事業の計画の策定と実施に努めます。	○学校・家庭・地域連携協力推進事業として、前期課程の児童を対象とした放課後チャレンジクラブや後期課程の生徒を対象とした地域未来塾を行いました。	○各種団体の学習活動支援を継続します。
イ 各種社会教育施設との連携を強めます。	○社会教育委員が甘楽郡社会教育振興協議会の研修にて下仁田町の荒船風穴を視察しました。	○近隣町村の社会教育施設を視察し、南牧村の社会教育に生かします。
ウ 住民の自主的な社会教育活動を支援するとともに、成果が地域や村づくりに活かせるよう推進体制の整備を図ります。	○村民向けに体育的な社会教育事業を実施しました。	○体育的事業に加え、教育・学術及び文化に関する大人向けの事業を実施します。

(4) 青少年教育の充実

目標達成のための方向性	進捗状況と評価	課題と今後の対応
ア 次代を担う青少年の育成は社会全体の責務であるという意識啓発を行い、実践に努めます。	○様々な体験学習を通じて社会性を育み、絆をより一層深めることを目的に、また、子どもたちが自分の将来を考え体験できる機会を提供するため、「雪国体験学習」と「すぐそこの未来体験学習」を行いました。	○学校・家庭・地域連携協力事業のより一層の充実を図ります。
イ 青少年が地域で様々な活動に積極的に参加できるよう支援します。		
ウ 学校・家庭・地域が連携し、社会全体で青少年の健全育成に取り組む環境づくりを推進します。		
エ 様々な体験活動を通して、社会性や豊かな人間性を育みます。	○北海道羅臼町体験活動を行い世界自然遺産を体感し、豊かな人間性を育みました。	○体験学習を引き続き行う上でより充実した内容で、児童生徒の社会性を伸ばしていきます。

(5) 家庭環境の充実

目標達成のための方向性	進捗状況と評価	課題と今後の対応
子どもたちを「地域の子ども」として見守り、育てるなど、村全体で支え合う家庭教育支援の取組を推進します。	○児童生徒の長期休業中の健全育成活動を推進するとともに、駐在所と連携し登校時のあいさつ運動を行い、青少年の健全育成に努めました。	○継続してあいさつ運動を行い、青少年を取り巻く状況を的確にとらえ、適切な指導助言、啓発活動に努め、青少年の健全育成を推進します。

2 スポーツ活動の充実

村民が生きがいを持ち健康増進を図れるよう、気軽に楽しめるスポーツ機会の提供を実施する。

(1) 生涯スポーツの振興

目標達成のための方向性	進捗状況と評価	課題と今後の対応
ア スポーツ・レクリエーション活動の情報提供や指導者育成、場の提供に努めます。	○チャレンジデー、スポーツフェスタ及び体育協会事業等、コロナ禍以前と同規模に事業を実施しました。	○今後も健康で明るい村づくりのため、スポーツ振興を推進します。 ○村事業や他市町村とも連携を図り、住民に有益な事業を推進します。
イ 気軽に楽しめる軽スポーツや心と健康づくりを意識し、医療と連携したスポーツの普及に取り組みます。	○スポーツフェスタ、農業祭において、村体育協会の事業として軽スポーツ体験を行いました。	○各種スポーツ団体をはじめ、個人の生涯スポーツ活動支援を継続します。

(2) スポーツ施設の整備

目標達成のための方向性	進捗状況と評価	課題と今後の対応
体育施設の計画的な維持管理と整備の充実に努めます。	○良好な施設環境を維持するため整備を継続して実施、施設の維持管理に努めました。	○継続して施設の維持管理に努め、住民が安心してスポーツを楽しめる環境づくりに努めます。

3 芸術・文化活動の振興

歴史的文化遺産等、地域資源を活用した文化活動を推進する。

(1) 芸術文化活動の振興

目標達成のための方向性	進捗状況と評価	課題と今後の対応
ア 心豊かな文化活動の充実を図ります。	○かぶら文化講座にて多様な分野における学習内容を提供しました。	○村民のニーズに沿った文化活動の推進に努めます。
イ 自主活動団体の活性化を図れるよう支援に努めます。	○各種団体への補助を行い、活動の活性化を図れました。	○各種団体における活動の成果を生かす場の提供に努めます。
ウ 文化にふれあう機会の拡充に努めます。	○みんなの学び場では、川柳教室を開催し伝統文化にふれあう機会を企画しました。	○多様な文化に触れる機会の提供に努めます。

(2) 文化財の保存・活用と伝統文化の継承

目標達成のための方向性	進捗状況と評価	課題と今後の対応
ア 文化財の保護・活用により、郷土に対する関心を高めます。	○ぐんま絹遺産に登録されている「星尾風穴」の管理に努めました。	○文化財調査委員と連携し、文化財の調査を継続し、保護活動を推進します。
イ 郷土の歴史と文化を学び、文化財の保護意識を高めます。	○文化財調査委員の知見を広げるため長野県伊那市高遠町で研修を行いました。	○今後その成果を地域に発信し、住民の関心度を高めます。
ウ 伝統文化の継承に努めます。	○地域の伝統文化を継承することを目的に、児童生徒を対象に「南牧小唄」の指導を行いました。	

(3) 文化施設の整備充実

目標達成のための方向性	進捗状況と評価	課題と今後の対応
ア 歴史民俗資料の調査収集と保護管理の充実に努めます。	○国選択無形民俗文化財火とぼしの企画展を道の駅で実施し、伝統文化の継承を図りました。	○民俗資料館の開館日等について検討し、歴史、文化の学習機会の提供を推進します。
イ 歴史や文化を多角的に学習できる機会の提供に努めます。		